

旅展プロジェクト:

ぶらり、インタラクション

慶應義塾大学 環境情報学部 3 年

岩崎恵美

t09081mi@sfc.keio.ac.jp

1. はじめに

本報告書では、2011 年 9 月 8 日～9 月 10 日に開催された旅展の活動報告と研究成果の報告を行なう。

2. 目的

現在、安村研究会では、情報技術の進化によって大きくその姿を変えた「旅」を見直し、新たな付加価値を生み出すためのアプリケーションや道具の開発を試みている。我々は、インタラクションデザインの思想をもった「旅」が私たちをより快適で楽しい旅へ誘ってくれるという理念の下に研究を進め、よりアカデミックな学会発表や論文投稿につなげることを目的に本展示会を企画した。

3. 展示会の開催報告

3-1 開催概要

本展示会の開催概要は次の通りである。

- ・開催期間: 2011 年 9 月 8 日(木)～9 月 10 日(土)
- ・会場: 秋葉原「3331 Arts Chiyoda」
- ・Web ページ: <http://ylab.sfc.keio.ac.jp/tabi-ten/>



会場の様子

3-2 趣旨

本展示会では、体験可能なプロトタイプを用いたデモンストレーション型の展示と「旅」というフィールドで活躍している識者とのトークセッションを実施することで、旅における新たなインタラクションデザインの提案と、各作品のユーザー評価を行なうことを趣旨とした。

3-3 出展作品

会場では全 13 点の作品が展示された。その中でも特に注目を集めた作品を次に記す。

・くも落とし

旅先のポスターに載っている商品を、スマートフォンを用いて、身近にある自動販売機から実世界ダウンロードするというコンセプトのシステム。

・CQ Submarine

世界中に散らばる音や映像を方向と距離を使ってチューニングしながら、それらを曖昧に取得し、偶然の出会いを生み出す作品。

その他の作品：Journey Relay、ステップナビ、CQ Submarine、旅まんじゅう、AR 不思議 NAVI、メタボパッカー、Memory Pointer、自分用バスガイドさん、旅バンク、新天地へようこそ、ぶらっと鉄道の旅支援、座席ビュー

3-4 トークセッションの開催

本展示会の開催期間中、毎日講演者を招き「旅」をテーマとして約 90 分間のトークセッションを実施した。旅というキーワードに纏わるフィールドで活躍されているゲストと講演テーマは次の通りである。

(1)9月8日(木)13:30～「日本人の旅、こころの旅」

- ・佐伯 剛(風の旅人 編集長)
- ・村山 香苗(JR 東日本 大人の休日倶楽部)
- ・安村 通晃(慶應義塾大学 環境情報学部 教授)

(2)9月9日(金)14:00～「果てしなく、女の旅欲」

- ・山本 貴代(女の欲望ラボ代表/女性生活アナリスト)
- ・小川 克彦(慶應義塾大学 環境情報学部 教授)
- ・安村 通晃(慶應義塾大学 環境情報学部 教授)



トークセッションの様子

(3)9月10日(土)14:00～「旅とメディア」

- ・メレ山 メレ子(秋田犬「わさお」をブレイクさせたカリスマブロッガー)
- ・安村 通晃(慶應義塾大学 環境情報学部 教授)

4. 今後の展望

本プロジェクトの実施により、我々は研究の早い段階での体験可能なプロトタイプ作製を実現し、実社会からの評価を取り入れることができた。今後その評価をもとにより研究を深めよりアカデミックな学会発表や論文投稿につなげていきたい。

5. 謝辞

本展示会の実施において、その研究遂行に協力いただいた安村研究室の教員・学生の皆様、講演会のゲストの皆様、そして約200名ほどの「旅展」にご来場いただいた皆様にも感謝したい。本研究は、2011年度湘南藤沢学会「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」、2011年度学術交流支援基金の支援の下に行なわれた。